

温室効果ガス排出量 検証報告書

2025 年 3 月 27 日

長谷川香料株式会社 御中

一般社団法人日本能率協会
地球温暖化対策センター
上級経営管理者 丸尾 智雅



1. 検証の対象及び目的

長谷川香料株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定対象^{※1}における温室効果ガス（GHG）排出量算定結果「2024 年 63 期算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の 2023 年 10 月 1 日から 2024 年 9 月 30 日までの以下の GHG 排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会地球温暖化対策センター（以下「当協会」という。）に対し、限定的保証を目的とした検証を依頼した。

1) スコープ 1 GHG 排出量

算定対象における都市ガス、LPG、及び、A 重油の使用に伴って直接的に排出される CO₂ 排出量

2) スコープ 2 GHG 排出量

算定対象における電力の使用に伴って間接的に排出される CO₂ 排出量

3) スコープ 3 GHG 排出量

算定対象の事業活動におけるスコープ 3 カテゴリ 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 12^{※2}において排出される CO₂ 排出量

検証の目的は、事業者の GHG 排出量情報が算定方法^{※3}に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成し GHG 排出量情報を報告する責任は事業者にあり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載された GHG 排出量情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続き

当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従って検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載の GHG 排出量を決定するために用いられた情報に関する、算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認
- 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー
- GHG 排出量の正確性を確認するためのサンプリングによる根拠となる資料の確認

3. 検証の結論

算定報告書に記載された GHG 排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。

検証された温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e)			
	長谷川香料 (株)	長谷川ビジネスサービス (株)	国内連結 ^{※6}
スコープ 1 ^{※4}	6,630	1,507	8,137
スコープ 2 ^{※5}	5,396	855	6,251
スコープ 3 ^{※6}	171,775	1,878	173,653
スコープ 3 内訳			
カテゴリ 1 ^{※3}	156,484	534	157,017
カテゴリ 2	4,195	3	4,198
カテゴリ 3 ^{※3}	3,129	435	3,564
カテゴリ 4 ^{※3}	5,325	735	6,060
カテゴリ 5 ^{※3}	689	85	774
カテゴリ 6	1,038	8	1,046
カテゴリ 7	850	72	922
カテゴリ 12	66	6	72

NOTE:

※1：算定対象：長谷川香料グループ国内連結 計 8 拠点

- ・長谷川香料(株)単体：本社（鍛冶町ビル、KYY ビル含む）、大阪支店、名古屋営業所、札幌営業所、総合研究所、深谷工場、板倉工場
- ・長谷川ビジネスサービス(株)：ファインフーズ工場

※2：スコープ 3 の各カテゴリの概要

- カテゴリ 1（購入した製品・サービス）：原材料、副資材、商品の調達（海外グループ会社からの調達は除く）、上水・工業用水、及び、主要な間接経費等を対象
- カテゴリ 2（資本財）：建設、購入した資本財（設備、機器、車両、ソフトウェア等）を対象
- カテゴリ 3（スコープ 1, 2 に含まれない燃料及びエネルギー関連活動）：使用した燃料、電力を対象
- カテゴリ 4（輸送、配送（上流））：
 - ・長谷川香料(株)単体：調達輸送、出荷輸送、横持輸送を対象
 - ・長谷川ビジネスサービス(株)：調達輸送、出荷輸送を対象
- カテゴリ 5（事業から出る廃棄物）：算定対象から出る産業廃棄物を対象、本社・総合研究所の一般廃棄物を対象
- カテゴリ 6（出張）：公共交通機関、自家用車の利用による従業員の出張を対象
- カテゴリ 7（雇用者の通勤）：従業員の所属拠点への通勤を対象
- カテゴリ 12（販売した製品の廃棄）：販売した製品の梱包材の廃棄を対象

※3：スコープ 1, 2, 3 の算定方法

「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン (ver.2.6)」、「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(ver.3.4)」、「国立研究開発法人産業技術総合研究所 IDEA ver3.4.1」、及び、事業者が作成した「GHG 排出量算定手順書」

なお、カテゴリ 1, 3, 4, 5 では以下の原単位の合計値を使用

- ・ IDEA ver3.4.1：ISO21930 気候変動化石由来と ISO21930 気候変動 LULUC

※4：都市ガスの排出係数：ガス事業者別排出係数を使用

※5：電力の排出係数：電気事業者・メニュー別調整後排出係数を使用

※6：GHG 排出量の値(t-CO₂e)は小数点以下も含めた合計値

以上